

Bypath



SITE

敷地の周辺にはいくつかの学校と図書館が点在している。また、敷地の北側の道路は車両が通れることからバイクの駐車スペースにいらっていたり、人の往来が激しい通りである。対して南側の道路は、車両は通れなく、道沿いにベンチやスーパーが多くあることから、立ち止まる人、スーパーに立ち寄る人、散歩をする人などゆっくりとした動きになっている。



住居エリア

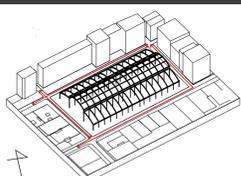
Many people are in a hurry

Many people sit or walk slowly.

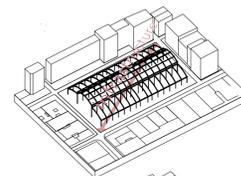
スーパーやベンチ道沿いに多い

CONCEPT

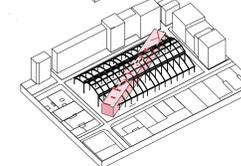
Marcat Library Infrastructure



対象敷地は四面道路に囲まれているため、対角線に動くためには敷地を回らなければいけない。



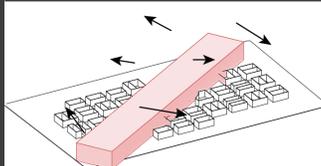
対角線に通る道をつくることで、メインストリートへの近道が生まれる。さらにインフラとなる道をつくることによって、市場が買い物客だけでなく、周辺の住民も集まるようになる。



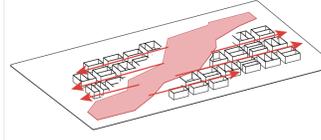
この斜めに通る道が図書館となることにより、周辺住民だけでなく学生なども集まり、交差点のような建築となる。この図書館は普通の図書館ではなく、食に関する図書館にすることで、市場と図書館が学びと体験としてつながる。

DIAGRAM

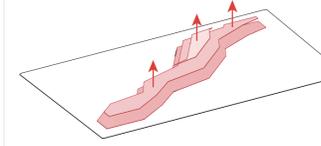
ZIG-ZAG



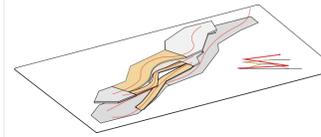
グリッドに並んだ店舗に合わせて、視点場をつくるために図書館をジグザグに角度を振る。これにより市場と図書館が視線によってつながる。また、ジグザグにしたことで、大きさの異なる空間が生まれ、多様なアクティビティに対応する。



ジグザグに入り込む斜めの道を回することで、バルセロナの街のようにグリッドの市場に対して、各店舗にアクセスしやすくする。

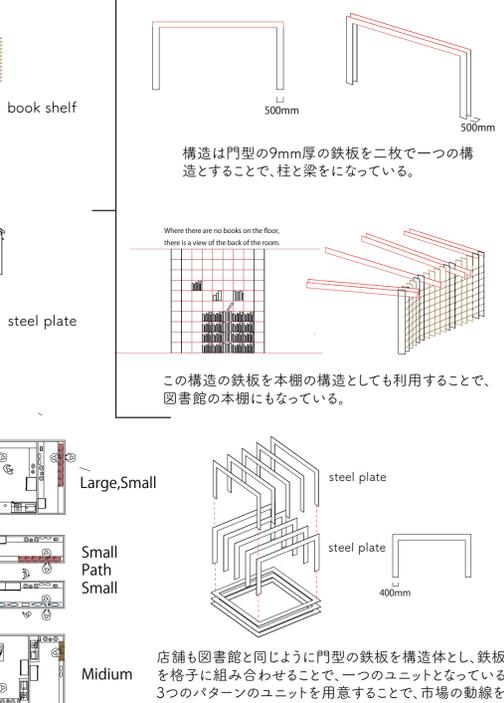
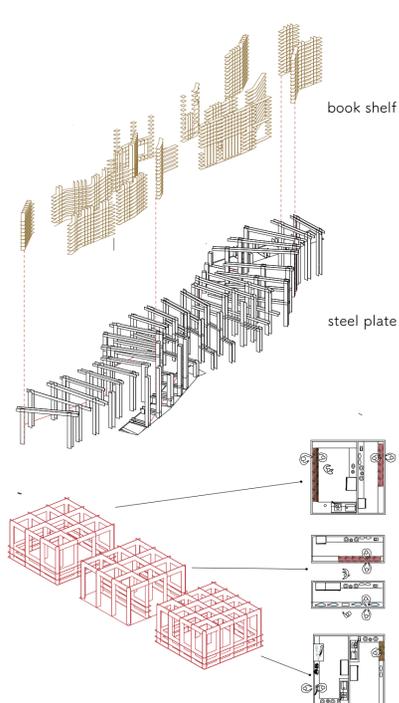


図書館のフロアを垂直方向に増やす。

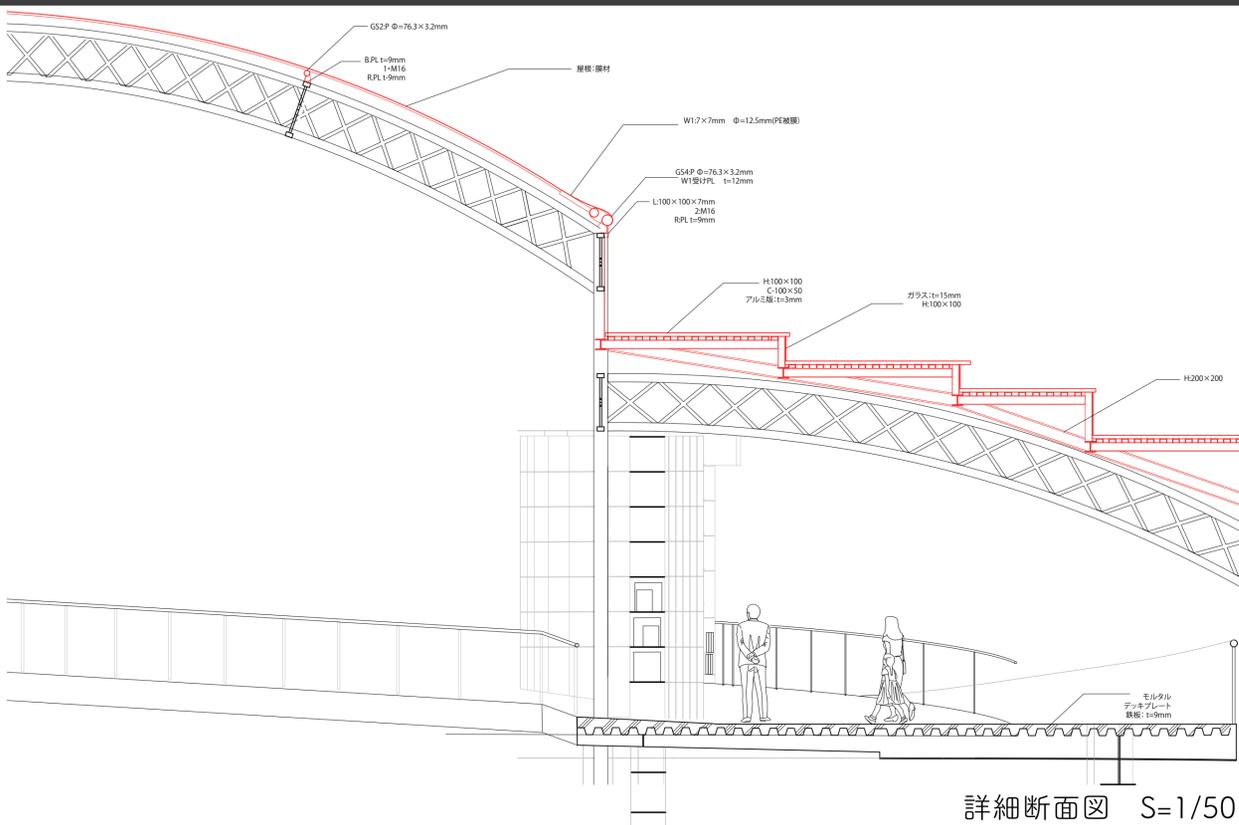


それぞれのフロアをスロープによってつなげることで、図書館と斜めの道が連続的につながり、まるで道の途中図書館が生まれる。散歩の途中でふらっと立ち寄り、テラスとして利用したりと街路のような振る舞いをする。

Construction

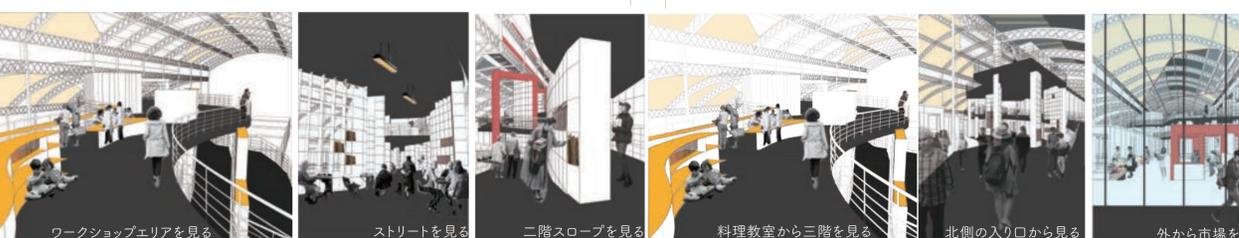


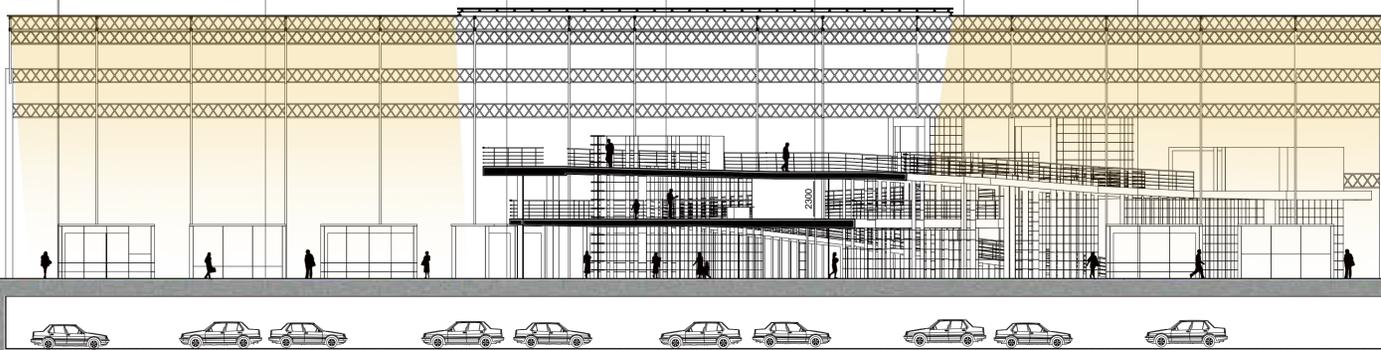
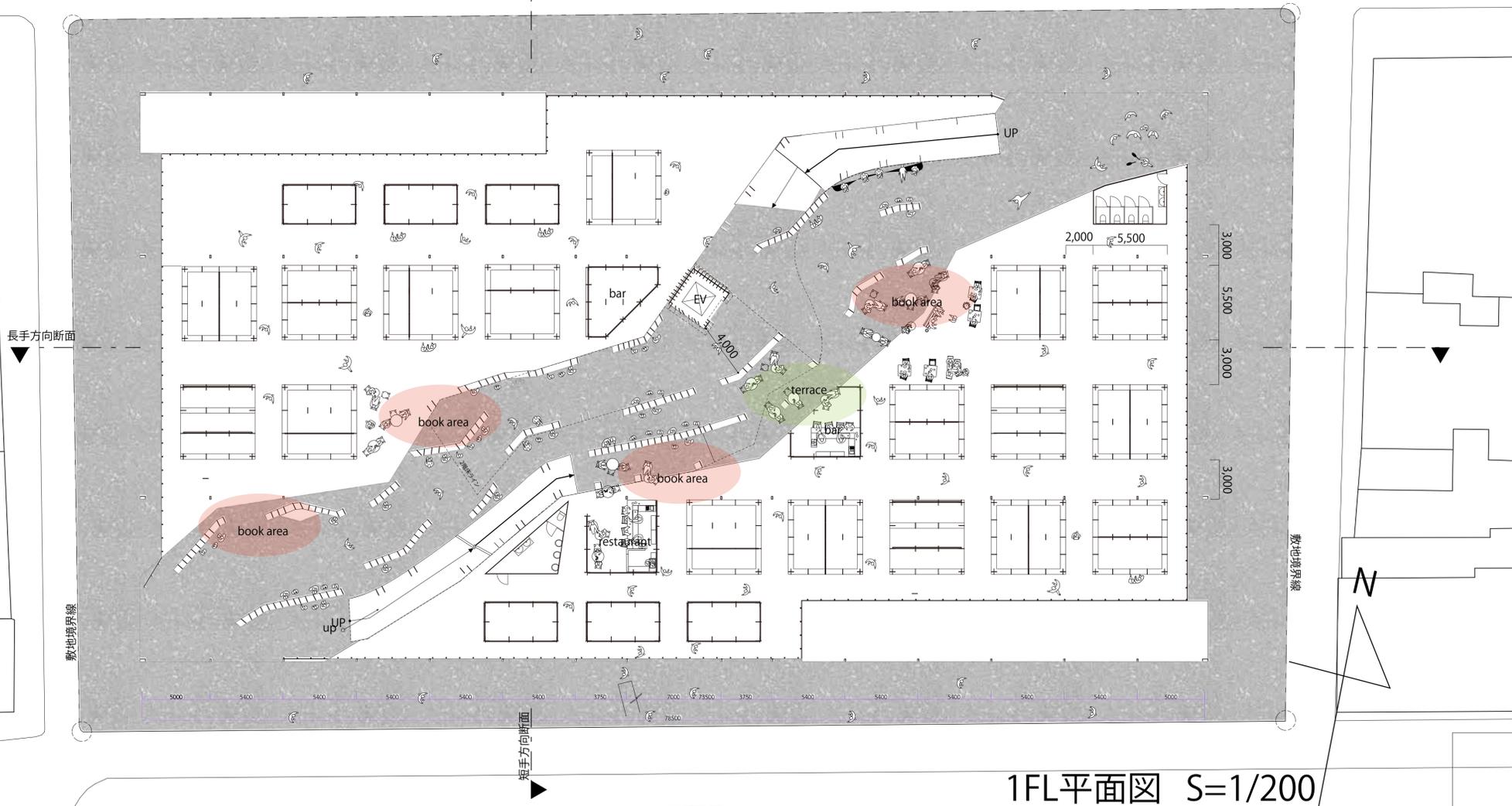
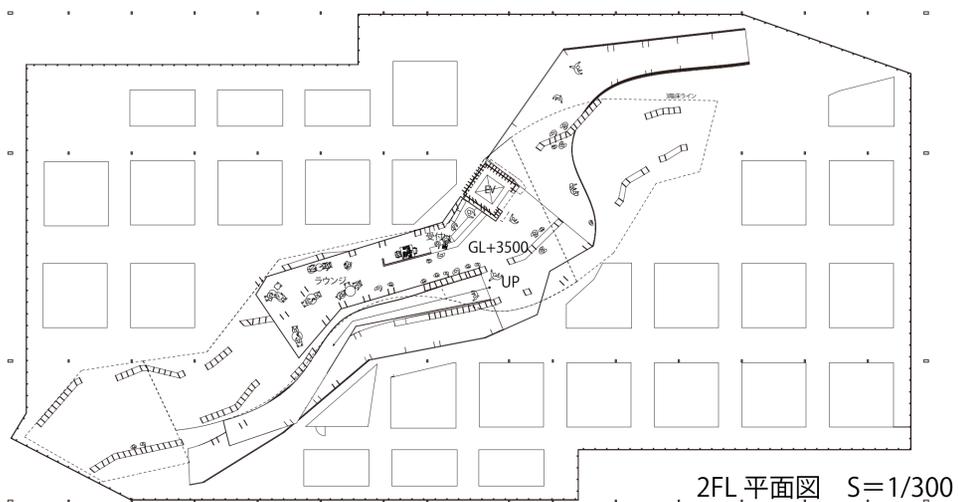
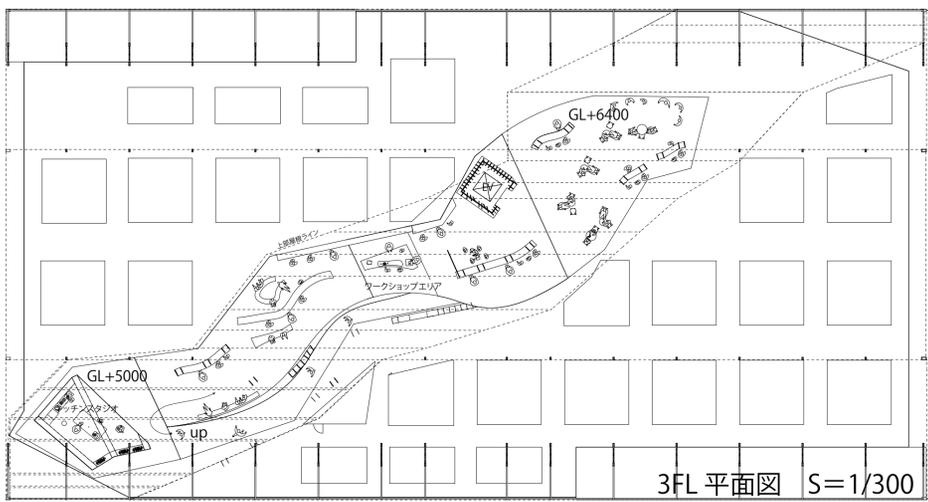
DETAIL



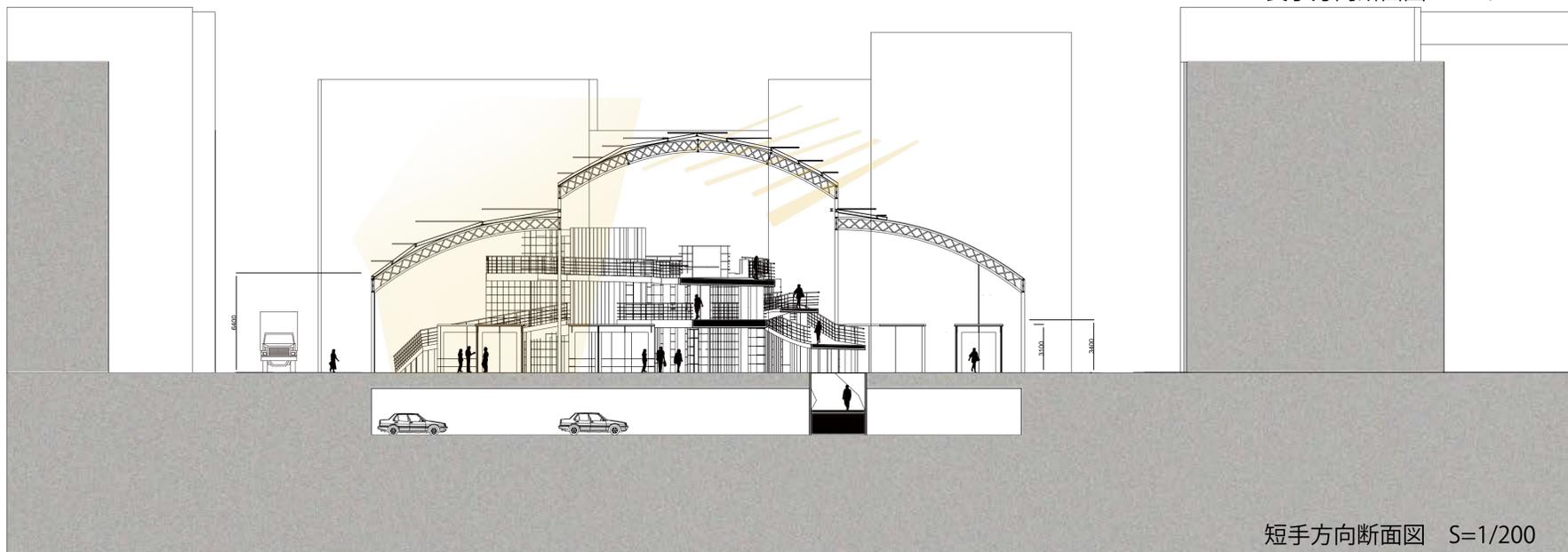
詳細断面図 S=1/50

SCENE





長手方向断面図 S=1/200



短手方向断面図 S=1/200